

研究力アップセミナー 開催報告

女性研究者や若手研究者の国際的な研究力の育成や、英語による研究成果の発信による国際的な認知度を高めることを目的として、英語でのプレゼンテーションのスキルをあげるためのセミナーを実施した。

【日時】9月20日(水) 13:30-15:00

【場所】Zoomによるオンライン形式

【参加者】15名

【内容】

英語でのアカデミックなプレゼンテーションの仕方の基本についてのレクチャー(30分)と、プレゼンテーションの導入・トランジション・質疑応答などについて、実際に少人数に分かれて練習し、講師からフィードバックを得るワークショップ(60分)。

【講師】言語教育センター助教 隈上麻衣先生



【開催内容】

最初の30分は隈上先生から基礎編としてレクチャーが行われた。まず、英語と日本語に限らず、良いプレゼンテーションに必要な要素をあげて、次に伝わる英語プレゼンの準備の仕方を8ステップに分けて説明があった。さらに、こうした準備の他に、「Audience friendly」の観点の必要性が説明された。そして Audience friendly チェックリストをもとに、オーディエンスに伝わるパワーポイントの作成方法と、発表の際の話し方や振る舞いについて解説がされた。また、実際の発表の場面で使える様々なフレーズも紹介された。

続いて、実践編では、ブレイクアウトルームに分かれたワークショップを行った。参加者は持参した発表パワーポイントを用いながらグループワークを行った。まず、参加者どうしでお互いのパワーポイントを見せ合い、Audience friendly チェックリストを用いてパワーポイントの見やすさをチェックし合った。その後、シナリオに沿って模擬プレゼンを行った。発表の際の主要なポイント(イントロダクション、スライドの内容の簡単な紹介、最後の質疑応答)を実践した。講師は、グループを順番に回ってアドバイスやコメントを返した。各グループで、参加者の皆さんは和気あいあいと活発にワークショップに取り組んでいた。

最後に、隈上先生からは、英語でのプレゼンスキルを上げていくために、誰かにプレゼンを事前に見てもらおうこと、とくに本日のように自分一人ではなく仲間をつくってお互いに練習することがアドバイスとして提案された。

参加者からは本セミナーで得た学びとして、以下のような感想があった。

- スライドのポイントを押さえること、心構えなど。

- スライド作成に時間をとりすぎていてプレゼンテーション自体の練習があまりできていなかったこと。
- I learn new phrases that can be use in presentation
- つい中身にばかり意識を向けていましたが、実際に「話す」ことを念頭におくと、つながりのフレーズを体得しておくことはとても大事なと理解ができました。隈上先生のプレゼンが見事なお手本になっていて参考になりました。ありがたかったです。
- ただ英語を正しく話すだけでは伝わらないと分かった。プレゼン資料の準備からいかに伝わるような構成で話すか、それをどのように英語で表現するのが大事だと感じた
- 英語表現の例文集には自分が普段使うものとは違うものもあり、使えるオプションが増えそうだと思います。また隈上先生の今回のプレゼンを拝聴する中で、話すテンポや声のトーンが大変聞き取りやすく、すぐに真似できるものではないと思いますが、勉強になりました。